

オナモミ	<i>Xanthium strumarium</i> L.	絶滅危惧Ⅰ類
(環境省:絶滅危惧Ⅱ類)		キク科
選定理由	かつては広く見られたとされるが、現在は生育するという情報がない。	写真(国立科学博物館) 標本 
形態の特徴	茎は高さ1mほど。葉は長い柄があり、葉身は卵状三角形、鋭尖頭、基部は心形、縁に不揃いの鋸歯がある。頭花は単性。雌性頭花の総苞は壺形で2本のくちばし状の突起があり、かぎ状の刺密生する。	
生態的特徴	日当たりのよい道ばたや荒地に生育する。花期は8-10月。	 ※生息地不明
分布状況	東アジアに広く分布する。日本でも各地にあったが、最近ほとんど見られなくなった。岐阜県でも広く見られたとされるが、現在は生育情報がない。	
減少要因	不明。	
保全対策	不明。	
特記事項	近年は全く見られないので分布を示すことができない。	
参考文献		

文責:高橋弘